

部局名	
※受付番号	54

動物実験計画書

提出日 平成 27年 5月 1日

動物実験責任者	(所属・職) 農学生命科学研究科獣医学専攻・教授 (内線) 25384 (氏名) 九郎丸 正道 [E-mail] amkuroh@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp						
動物実験・飼育室の設置場所					施設等番号		
動物処置室の設置場所					施設等番号		
研究課題	獣医解剖学実習(イヌの解剖)						
動物実験の目的	解剖学実習に用いるための処置						
動物実験の実施期間	平成 27年 5月 8日 ~ 平成 28年 3月 31日						
使用動物	動物種 イヌ イヌ	性別 雄 雌	系統 ビーグル ビーグル	匹数 5 5	入手先	遺伝的保証 なし なし	微生物学的保証 なし なし
安全管理上注意を要する動物実験	<input type="checkbox"/> 該当しない・該当する		<input type="checkbox"/> 拡散防止措置 物理的封じ込め				
	<input type="checkbox"/> 遺伝子組換え動物・特定動物・特定外来生物 の使用						
	<input type="checkbox"/> 微生物接種						
	<input type="checkbox"/> 遺伝子組換え微生物の使用						
	<input type="checkbox"/> 放射性物質や放射線の使用						
	<input type="checkbox"/> 有害化学物質(毒物・発癌剤等)の使用・対応						
	<input type="checkbox"/> その他						
動物実験の方法	苦痛の評価	B	人道的エンドポイント	要・不要			
	桡側皮静脈に留置針を装着し、鎮痛・麻酔薬により深麻酔へ導入。その後直ちに左側頸部を切開し、左総頸動脈にカニューレを挿入する。深麻酔条件下でカニューレより放血を開始し、すみやかに安楽死を行う。続いて、固定処理のため20%ホルマリンをカニューレより注入した後、動脈観察用に赤色色素を含むラテックスをカニューレより注入する。さらに各種臓器の固定のため、胸腔ならびに腹腔に固定液(20%ホルマリン)を注入する。脱ホルマリン処理は、50%エタノール液中への浸漬により行い、数ヶ月毎に50%エタノールを2回更新する。これを実習に用いる。						

5条4号柱書

5条4号口

5条4号木

5条2号イ

	当該動物種と 使用数 を必要とする 理由	<当該動物種を選択した理由> 獣医解剖学教育の標準がイヌであり、効果的な教育を行う上で必要と考えられるため。	
3 R	動物の苦痛 軽減、排除の 方法	1 短時間の保定や注射等の軽微な苦痛の範囲で、特に処置を講じない。 2 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。(薬剤名: ペントバルビタールナトリウム) 3 その他 ()	
	動物実験終了時 の安楽死の 方法	1 麻酔薬等 [薬剤名:] の過剰投与・過剰吸引 2 深麻酔下 [薬剤名: ペントバルビタールナトリウム] での全採血・放血 3 炭酸ガス吸入 4 中枢破壊 [方法:] 5 その他 []	
〔(所属・)職名等・氏名、講習会の受講歴〕		平成 27 年度農学部獣医学専修【別紙参照】 学部 3 年生 29 名 2015 年 (受講 学生証番号 [])	
動物実験実施者 及び飼養者	獣医解剖学教室 教 授 九郎丸正道 2014 年 准教授 金井 克晃 2014 年 研究員 黒田 淑子 2011 年 技術員 内山 悠紀 2013 年 [] 2014 年 []		
その他特記事項等	ペントバルビタールナトリウムの使用にあたり、向精神薬の届出を行っています。		
※動物実験委員会 の意見等	審議の結果	(適合) • 修正 • 不適合	
※部局長承認欄	部局承認日 平成 27 年 5 月 7 日	承認番号 p15-054	
	本動物実験計画を承認します。 部局長名丹下 健		

注) 必要に応じて記入欄を上下に拡大・縮小するか、別紙を添付してもよい。

部局名	
※受付番号	

動物実験終了報告書

平成27年3月31日提出

動物実験責任者	〔所属・職〕農学生命科学研究科獣医学専攻・教授 (内線) 25384 〔氏名〕九郎丸正道  [E-mail] amkuroh@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp		
研究課題	獣医解剖学実習(イヌ)	承認番号	P14-870 PH14-029
動物実験の実施期間	平成26年 4月 18日 ~ 平成27年 3月 31日		

動物実験の実施状況の検証			
総合的実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実験計画どおりに実施 <input type="checkbox"/> 一部変更して実施 <input type="checkbox"/> 中止	
3 R	動物の選択	・ 使用した動物種は適正であったか。また、動物を適正に用いたか。 ■ 適 <input type="checkbox"/> □ 不適 →	
	動物数の削減	・ 使用動物数(実験使用数及び繁殖数)の削減に努めたか。 ■ 適 <input type="checkbox"/> □ 不適 →	
	動物の苦痛軽減 安楽死	・ 動物の苦痛軽減、排除及び安楽死を適正に行ったか。 ■ 適 <input type="checkbox"/> □ 不適 →	
施設等の利用		・ 動物処置室及び動物実験・飼育室を適正に利用したか。 ■ 適 <input type="checkbox"/> □ 不適 →	
教育訓練		・ 動物実験実施者及び飼養者に動物訓練を行ったか ■ 適 <input type="checkbox"/> □ 不適 →	
事故の発生		・ 事故報告書の提出に該当する事故の発生があったか。 ■ なし <input type="checkbox"/> □ あり →	
使用した動物種	イヌ	安楽死措置を講じた動物数 (本年度分)	11
その他			

実験成果の概要	<p>本実験は、動物実験計画書ならびに動物実験変更計画書に沿って行われた。橈側皮静脈に留置針を装着し、鎮痛・麻酔薬により深麻酔処置を施した。その後直ちに共同研究者が角膜・皮下脂肪組織（獣外科科学研究室）、骨髓・リンパ節（獣医内科学研究室）、涙腺・唾液腺（生物化学研究室）等の採材を深麻酔条件下で行った。その後、動脈に装着されたカテーテルより、ホルマリン固定液（20%ホルマリン水溶液）を注入して、固定処理を施した。続いて、動脈の観察用に、赤色の色素を含むラテックスをカテーテルより注入した後、腹腔と胸腔にホルマリン固定液を注入した。これを50%エタノール中に保存し、エタノールを2度交換することにより、脱ホルマリン処理を行った。これを実習材料として、獣医学専修3年生に開講された獣医解剖学実習に用いられた。</p>		
計画終了時の動物の有無	動物の有無	無・有	
	(理由)		
※動物実験委員会の意見等			
※部局長欄	部局審査日	平成27年々々月々々日	審査番号
	本動物実験終了報告を審査しました。 部局長名		

注) 必要に応じて記入欄を上下に拡大・縮小してもよいが、表裏2ページまでとする。別紙を添付してもよい。
動物実験計画書及び動物実験変更計画書のコピーを添付すること。